

九州産業大学のスポーツ・健康活動の展望

Future Prospects for the Sports Activities
at Kyushu Sangyo University

安達 隆博

九州産業大学のスポーツ・健康活動の展望

Future Prospects for the Sports Activities at Kyushu Sangyo University

安達 隆博

2018年4月、九州産業大学のスポーツ活動、健康活動に新たな拠点が加わる。人間科学部スポーツ健康科学科の開設である。これまで、九州産業大学におけるスポーツ、健康に関する授業科目においては、健康・スポーツ科学センター所属の教員がKSU 基盤教育のコア科目であるスポーツ科学演習をはじめ、健康学、心の健康といった授業科目を担当し、「心身ともに健全な人間教育」を目指して教育活動を行ってきた。これらの活動は、大学教育の基礎となる重要な役割を担っていることが、これまで発行された健康・スポーツ科学センターの紀要によって明らかにされており、今後も基盤教育として学生の教育に必要な内容を提供し、その効果が期待できるものとする。また、学内外に対してはスポーツ大会、スポーツクリニック、公開講座等を開催することにより、スポーツ活動の支援を行ってきた。学生がスポーツ活動を行う場を提供することは、スポーツを行いたいと考える多くの学生の要望に応える重要な役割を果たしている。さらに、学生のみならず、地域社会に対して行ってきたスポーツ大会やクリニック、公開講座では、学外の方々にも九州産業大学の魅力を知ってもらう機会にもなっており、参加希望チーム数や希望者数から

みても健康・スポーツ科学センターの事業として意味あるものであることが示されており、今後も積極的に進めていくことが必要であると思われる。

一方、学内の正課外活動である学友会体育会の活動については、学生部学生課管轄のもと、これまで50年以上にわたり、様々なサークルが九州内にとどまらず、西日本規模の大会で、あるいは全国規模の大会において活躍してきた。その歴史の中で、全国大会優勝の偉業を成し遂げたサークルも少なくない。この伝統は大変価値あるものであり、大学の発展を考えると、改善を図りながら、これからも継承していかなければならないものである。

このように、これまで九州産業大学のスポーツ・健康関連の取り組みは、健康・スポーツ科学センターを中心とした正課授業、学内外へ向けた事業(各種大会、クリニック、公開講座等)、および学生課管轄で行われてきた体育会サークル活動であった。しかしながら、今後、九州産業大学のスポーツ活動がさらなる発展を目指すにあたり、時代のニーズに則した対応をする必要があり、新たに開設される人間科学部スポーツ健康科学科が果たさなければならない役割は大きいと思われる。そこで、今後の発展のため

に考慮していかなければならない事項について以下の3点を挙げる。

1. 九州産業大学におけるスポーツ科学、健康科学の新たな学びの拠点

これまで、九州産業大学にはスポーツ・健康科学分野の学部学科は存在しておらず、この分野を専門的に学ぶことを目指して入学する学生はいなかった。開設される人間科学部スポーツ健康科学科では、スポーツ科学、健康科学をテーマとして、スポーツ生理学、スポーツ心理学、運動学、スポーツ社会学、スポーツ経営学等幅広い領域を専門的に学ぶことができる。これまでにない新たな学修内容を提供することができる。また、各専門分野がスポーツ、健康をキーワードとして相互に関係しているだけではなく、他分野とも関係している。このことが、九州産業大学が推進している学部横断型プロジェクト（KSUプロジェクト型教育）の一端を担うと考えられ、九州産業大学の教育に新たなテーマを加えることが望まれる。例えば、スポーツ栄養学と食品科学分野による新たな機能食の開発から販売までといった一貫した取り組み。また、スポーツの各種大会と観光分野および地域開発のプロジェクト、すなわちヘルスツーリズム、スポーツツーリズムを題材とした学びを実践できる。他にもテーマは多くあり、次世代を見据えた新たな産官学連携の可能性を秘めた取り組みによって、スポーツ・健康に関わる新しい課題を見付け、発展的に取り組むことの出来る人材の育成に取り組めるものと期待できる。また、建築が予定されている新体育館には、地域住民も利用できる施設を併設する。地域の健康づくりにも九州産業大学のソフトとハード両面から貢献していきたいと考えている。

このように、学内にとどまらず、学外に対し

てもスポーツ科学、健康科学における知の拠点としての役割を果たしていかなければならない。

2. スポーツ・健康分野における新しい視点からの教育・研究への挑戦

スポーツ・健康分野に関して、平成23年制定されたスポーツ基本法に基づき、翌年にはスポーツ基本計画が策定された。2020年に開催する東京オリンピック・パラリンピックに向けて、わが国のスポーツ・健康を取り巻く様々な環境は急速に整備されようとしている。「日本再興戦略2016」では、第4次産業の発展に向けて、スポーツ産業分野の成長を期待している。スタジアム・アリーナ改革、スポーツコンテンツホルダーの経営力強化、新ビジネス創出の推進といったテーマが挙げられている。現在、スポーツ産業分野の視点から教育・研究を行う体育・スポーツ系大学は少ない。九州産業大学がスポーツ産業、スポーツビジネス分野の視点からプロスポーツ業界と提携して教育・研究を行うことで、スポーツ市場規模の拡大、ひいてはスポーツ実施率の向上に寄与できるものと考えられる。

一方、平成26年5月に健康・医療関連法案（健康・医療戦略推進法および独立行政法人日本医療研究開発機構法）が成立し、健康・医療戦略においては、「世界に先駆けて超高齢化社会を迎える我が国にあっては、健康長寿社会の形成に向け、世界最先端の医療技術・サービスの実現による、健康寿命の延伸が重要な課題」であることが提言され、2020年までに医療分野の研究開発、新産業の創出、医療の国際展開、医療のICT化を行うことが閣議決定された。その中でも健康増進・予防、生活支援関連産業の市場規模を現在の4兆円から2020年までに10兆円へ拡大するとしている。このような社会環境の変

化に伴い、産業界では、新たな健康産業分野で活躍できるビジネス感覚を備えた人材の確保が望まれると考えられ、大学がその教育を行っていくことは急務であると思われる。

また、一般企業においては働く人たちの健康の維持増進が企業の生産性向上、組織の活性化につながり、ひいては業績が向上、対外的にも企業イメージアップに発展する「健康経営」が注目されている。この「健康経営」の視点を持った人材の育成を行うことが今後の産業界に望まれると考えている。健康管理、維持、増進の必要性やそのノウハウを身につけた人材がリーダーとなって組織運営に積極的に関わることがこれからの企業経営に必要不可欠であると思われる。また、この考え方は、一般企業に関わらず、学校現場でも同様である。これまで以上に、学校運営における教職員の健康管理が重要となっている現在、健康経営の知識、視点を持った保健体育教員がリーダーシップをとって、教職員の健康意識を高めることにより、より充実した学校運営へとつながり、子ども達へも健康教育の視点からのより高い教育効果をもたらすことが期待できると考える。このような視点を備えた保健体育教員育成を目指した教育が必要であると考ええる。

このように、新たな視点をもって取り組むことで、時代のニーズに即した教育・研究を社会へ還元していかなければならないと考えている。

3. 九州産業大学スポーツ活動支援の充実

平成29年9月、全国8大学が大学スポーツ振興の推進事業について採択された。この事業は、大学横断的かつ競技横断的統括組織いわゆる日本版NCAA創設を目指しており、今後、大学スポーツは全国規模で変革を求められることとなる。

九州産業大学における体育会の活動は、学生部管轄のもとで、体育会執行部の一員である学生が中心に運営の統括を行っている。しかしながら、各サークルの運営は、それぞれのルールに任されており（多くの他大学も同様と思われる）、運営費においては一部大学からの補助があるものの、多くは自己負担あるいはOB、OG会費からのものであり、大学全体で運営を統括する部署、いわゆるスポーツ局は存在しない。本学においても、強みであると評価されている「スポーツ活動が盛んなイメージ」をさらに強化していくために、スポーツ局を設置することが望まれる。そこでは、単にサークルを管理するだけにとどまらず、施設利用管理やプロモーション、広報活動やグッズ制作、地域貢献、行政やスポンサーとの業務まで行うまさにスポーツマネジメント業務を行うことが必要である。この業務に携わる専門職員を配置するとともに、スポーツ健康科学科の教員または、健康・スポーツ科学センターの教員が運営を主導することで、大学スポーツ全体を効果的に活性化できるものとする。

また、最近、競技スポーツへのサポート活動は多様化しており、様々な角度からのアプローチは、その効果が十分に期待できるものである。新しいスポーツ健康科学科では、体力測定や心理サポート、スポーツ栄養学からのサポート、映像を駆使したパフォーマンスのサポートまでより専門的な内容をトータルに提供することが可能となる。

近い将来、スポーツ局と学科が協力することにより九州産業大学のスポーツの魅力をステップアップさせていかなければならない。

これら以外にもスポーツ・健康をテーマに、学内外に対して貢献できる内容は大変多いものと考えられる。専門分野の壁を越えて、さらに

は他学部の教員や学生、また大学職員とともに、これまでの九州産業大学の体育・スポーツの伝統を受け継ぎながら、これまでの枠にとどまることなく、さらに新しい分野へ挑戦し続けることが九州産業大学のスポーツの発展、ひいては大学全体のブランド力強化につながるものと信じ、2018年4月に新入生を迎え九州産業大学の新しい伝統のスタートとしたい。